

# あびこ女性会議

## ニュース 第15号

発行責任者 あびこ女性会議  
代表 濱田 洋子  
Tel&Fax 04-7183-2789

2013年3月21日

あびこ女性会議ブログ <http://www.voluntary.jp/weblog/myblog/520>

# 地域防災計画に女性の参画・女性の視点は？

我孫子市では、平成23年3月11日の東日本大震災により布佐地域を中心に液状化による大きな被害を受けました。また、大震災に伴う福島第1原子力発電所の事故により、他の地域より放射線量の高いホットスポットとなり、これまで経験したことのない放射能対策に直面することとなりました。

市では、これらの大震災の教訓を今後の防災対策に活かすため、災害対策基本法に基づき、「我孫子市地域防災計画」を見直しました。

防災計画の作成や災害対策にあたっての女性の視点・女性の参画は、阪神淡路大震災以降、大きな課題となっています。そして、一昨年の

東日本大震災を受け、改めてクローズアップされるようになりました。

平成24年3月9日に開催された国連本部の女性の地位向上委員会においては、東日本大震災の教訓を踏まえ、災害対策や復旧復興に女性の視点を取り入れることを訴える日本提案の決議案が、全会一致で採択されました。

このような状況の中で、我孫子市の地域防災計画の作成にあたっての女性の参画状況はどうであったのか。また、防災計画には女性の視点がどのように盛り込まれているのか等、検証してみました。 (内田)

## ➤「市民危機管理対策会議」への女性の参画率 5%

- ・「我孫子市地域防災計画」を作成する会議の構成メンバーは40名。その内、女性はたったの2名。(途中から3名に)
- ・我孫子市の男女共同参画施策の中で、審議会等への女性の参画目標は40%。
- ・「市民危機管理対策会議」は、警察署長、陸上自衛隊の隊員、東日本旅客鉄道株式会社我孫子駅長等の充て職が多いため女性の参画が少なくなっている。

- ・それをカバーするために、分科会を設けて女性の意見を補うべきとの議員からの提案は実現しなかった。
- ・自治会や自主防災組織、地区社会福祉協議会等との意見交換会の中で、女性の意見を聴取したとのことでした。



## ➤「災害対策本部会議」への女性の参画率 6%

- ・災害時の庁内における最高決議機関である「災害対策本部会議」の構成員は、市長、副市長、教育長、水道局長、各部の部長、部長職にある者となっている。
- ・現在、本部会議の構成員は18名。その内、

女性は1名のみであり、女性の参画率が非常に低くなっている。

- ・改善を図るためには、市役所の中での管理職への女性の登用の推進が必要。

## ➤防災計画中、「女性の参画」の標記1箇所のみ

- ・「我孫子市地域防災計画」の中で、「女性の参画」という文言が書かれているのは1箇所。



- ・「避難所運営体制の整備」の項目の中に、

「検討にあたっては、**女性**や災害時要援護者等の**参画**を図り、さまざまなニーズや視点に対応した運営体制とすることに留意する。」と書かれているのみで、その他に「女性の参画」という文言は見当たらない。

◎「地域防災計画」を作成する「市民危機管理対策会議」や災害時の対応を協議する「災害対策本部会議」等、防災における決定機関への女性の参画は不十分。

◎今後、防災や災害対策における決定機関への女性の参画を増やすため、構成メンバーの工夫、庁内での女性管理職を増やすなどの環境整備が必要。

◎女性の視点が具体的に生かされた防災マニュアルの作成が期待される。

### ベアテ・シロタ・ゴードンさんのこと

日本国憲法の草案に直接かかわった最後の人、ベアテ・シロタ・ゴードンさんが、2012年12月30日に89歳で亡くなりました。

1929年、国際的に著名なピアニストの父とともに来日、5歳から10年間日本で育ったベアテさんは、母の勧めで語学を学び6ヶ国語に堪能でした。



米GHQ民政局にいたベアテさんは、22歳の若さで憲法草案制定会議のメンバーとして草案を執筆しました。主に社会保障と女性の人権について、日本国憲法24条、25条、27条に生かされました。

生まれた子どもの人権、婚姻と家庭は法の保護を受け、両性が法的にも社会的にも平等であること。配偶者の選択、財産権、相続等を個人の尊厳と両性の本質的平等の見地に立って定めるなどでした。

昨年の衆議院議員選挙で女性の当選者が、38名に止まったことについて「大変気がかり」と憂いました。「若い女性は、日本の女性の歴史的境遇や、その権利の進歩について学んでほしい。政治や経済の分野で積極的に活動することが大切です。」と語ったそうです。女性や子どもの人権、平和等について私達も改めて考えてみませんか。 (重田)

## 1.17 を生かして減災へ・・・神戸「人と防災未来センター」

2012年11月、神戸の「人と防災未来センター」に短時間でしたが立ち寄りました。(加藤)

▼このセンターは、2002年4月に兵庫県が設置し、公益財団法人が運営を行なっています。阪神・淡路大震災から得た貴重な教訓を世界共有の財産として後世に継承し、国内外の地震災害による被害軽減に貢献すること、生命の尊さ、共生の大切さを世界に発信することを目的としています。

▼5階建ての建物の4階にはシアターがあり、映像で1995年1月17日の大震災の追体験をすることができます。会場丸ごとがスクリーンになっていて、手すりだけがあり、立ったまま体験をします。当時の崩れ落ちる建物の映像が、四方八方から音響とともに落ちてきます。スタッフの方が始まる前、「皆さんのいる床は揺れておりません」と話していましたが、誰もが手すりにしっかりつかまり、揺れを感じていました。家の中では家具が、街の中でビルが、ガラスが、崩れ落ちてきます。車中や電車内から

の追突映像、駅や高速道路が崩れる映像、そして火災。見終わって次の部屋へ移動する時、誰もが黙っていました。私も心の中で「これは、誰も助からない！」と思いました。

もし、「自分だけは大丈夫」と考えていたら本気で防災への備えをしないでしょう。助からないと思うからこそ、減災を真剣に考え、努力をするのだと思いました。



防災マップ作りや避難所ルート等のワークショップ用の資料も集めてきました。

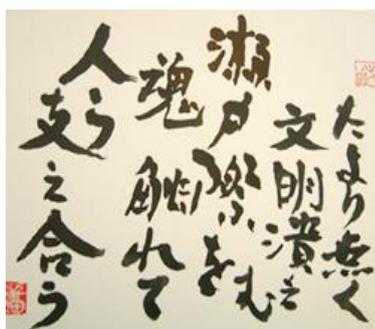
### 語り部からの体験談

「かの日より六年経ざり窓いっぱい ゆたかに灯す神戸いとおし」

▼震災に関する短歌をずっと作り続けているボランティアの千田さん(男性)からお話を伺いました。

「今まで妻にやさしい言葉などかけたことのない自分が、とっさに妻をかばっていた。」

「“水が欲しい”と避難所で申し出た若い女



性に初めは、こんな時に！と腹を立てた。しかし、赤ん坊のミルクを溶くのだと知り、水を得るために走り回った。わずかな

貴重な水を皆んなが差し出してくれた。」

▼「互いのことをよく知らず、互助の仕組みや訓練もほとんどない。そんな都会人が震災の修羅場で見事に助け合ったのです。命の危機を放置できない“やさしさ”でした。目の前で人の命が危ないという時、困っている自分のことを後回しにしてでも放っておけない。素手同然での救助活動が行われ、多くの命が救われたのです。」「私は、こうして助け合って頑張ってきた神戸の町を誇りに思っています。人間が本来持っているこの“やさしい”気持ちがある限り、神戸でできたこの支え合いは他の街でも海外でもきっとできるものと思っています。」と。私達の町にも神戸の“やさしい”心があることを信じたい。

## みんなで創る 安全・安心のまち～他人まかせでいいですか あなたのいのち～

主催:あびこ女性会議・我孫子市 会場:我孫子南近隣センター 多目的ホール

### 女性の知恵で 防災力アップ!

災害に強い地域づくりに取り組んでいる西山町会防災会(平成13年設立)の活動に立ち上げから参画されてきた古池佳子さんから、実践に即したお話を聞きました。

パワーポイントを使って豊富な事例紹介、防災グッズの実技指導(新聞紙で作るスリッパ・大形ビニール袋で作る防寒兼雨具の紹介)などあり、自主防災組織の取り組みに関心のある自治会の参加者も多く、明日にでも防災訓練がしたくなるような講演でした。



こいけよしこ  
講師:古池佳子さん

柏市西山町会防災会総務・千葉県災害対策コーディネーター・災害救援ボランティア推進委員会セーフティーリーダー・応急手当普及員(東京消防庁・柏市消防局)

### 《講演概要》

#### ★柏市西山町会と防災会の概要

西山町会も多くの自治会と同じで役員は平均1年交代です。運営委員会に防犯防火防災部があります。自主防災組織はありませんでした。行政も地域の自主防災組織結成を促がしていた平成13年、当時の町会長が町内の活動グループの長に人集めを依頼、民生委員、老人会代表、活動グループの代表の方々にも入ってもらい、防犯防火防災部の下部組織として「西山町会防災会」(組織図参照)を結成しました。

役員25名中9名が女性(総務1/2・会計2・給食給水班3・救出救護班3)、16名が結成当初から続いて活動しています。各班平均10名の班員がいて防災会メンバーは総勢82名です。班員募集には、9名の女性役員が日頃のご近所付き合いでキャッチしている情報を

#### ★被災地で学んだことを地域へ生かす

2004年の中越地震と2007年の能登半島地震の直後、ボランティアコーディネーターとして現地に入りました。最初に痛感したの



フル活用して、適材適所の方々をお願いをしました。メンバーの熱意と結束力で、防災会の活動が続いています。

は、テレビ報道は凄まじい現状の一部しか伝えていないということです。3.11大震災も同じだと思います。

被災地では、トイレ清掃や被災者に届く支援物資の仕分けなど5日間活動しました。物資集積所に届いた衣類のダンボール箱が男性の手でドンドン開けられ、畳まれたダンボールが山積みされていました。それを見た女性達は、ダンボールを元に戻してもらい、衣類の男女別、用途別、サイズ別などに仕分けしながらダンボール箱に整理しました。赤ちゃん用品、生理用品、下着などの取り扱いなどにも、女性の知恵が役立っています。

防災直後から困ったことは何かとお聞きすると、①トイレ、②水、③食べ物とのことでした。特に女性はトイレに困ります。①は市販の簡易トイレからバッグに入れて持ち運べるも

### ★防災力とは？

如何に災害時をイメージできるか～自分が、家族が、町がどうなってしまうのか、それを身近なことに直結してイメージしてみる～災害時、先ず行動しなければならないことは何か、事前に備えるべきものは何か～普段から災害

### ★西山町会防災会の活動のポイント

防災時、自分の命、家族の命は自分で守る～これは自己責任です。これに関しては、「防災会通信」などで被災地の事例や様々な情報を伝えて、自助の自覚を促す啓発活動をするだけです。いざ災害時、外からの応援が期待できるのは3日目からと言うなら、3日間に自主防災組織は何をすべきか～これが当会の活動のポイントです。

災害発生（在宅の場合）→先ず自分と家族の安全確保・安否確認（外出家族の）→身の回りの安全確認→外へ出て近所の安否確認→被災者

### ★安否確認・避難所運営訓練～K-Net について～

安否確認訓練＝災害時に最も必要で、しなくてはならない訓練です。阪神淡路大震災の時、救出された人の95%以上が家族やご近所に助け出されたと言われています。当会では、先ず班長さんが班員と協力して隣近所の安否確認、K

のまで多種あり、普段から選んでおくこと。②・③も3日間持ち応えるだけの備蓄をしておくこと。被災地の現状は、3日間は外部からの応援は何も望めません。3日間は個人も町会も自分達で何とかするほかない、これは「自己責任」と思います。

（防災備品のヒント）水は一人1日3ℓが目安。給水車から汲水する時の容器は、ビニール袋が便利。ヘルメットより防災頭巾が実用的。さまざまな状況に備えたい物に45ℓビニール袋（流す水が無い時、洋式トイレで使用）・カセットコンロとボンベ・電池。お湯を入れて作るアルファ米より、温めればよい「パックご飯」が水不足の時に便利。

時をイメージして準備することが被災を減らすことに繋がります。防災力とは減災力です。



の救助→救護所・避難所への誘導～これは私達が災害時に行動する自然な流れと思います。

次に自主防災組織があれば防災会、無い場合は自治会の役員さんのしなければならぬこと～災害対策本部を立ち上げ、町内の被害状況の把握をします。3日間は外からの応援は無いものとして、仮救護所の設置・負傷者の応急手当、救助、搬送・自分で避難できない人達を避難所に誘導・炊き出し等々やるのがいっぱい出てきます。これが災害時の行動イメージです。

～Net（柏市の災害時の安否確認や避難支援制度）の登録者（住宅地図に印・個人情報扱い）への安否確認→救護所・避難所への移送や誘導訓練をしています。

避難所運営訓練＝避難所は小学校の体育館

なので、校長先生、教頭先生、建物管理担当の方、行政職員、われわれ町会、防災会役員が連携し、避難所開設に何が必要か話し合いをしました。子ども達も一緒に避難訓練をしています。避難所は複数の町会が共有するので、避難者カードの作成・分かりやすい掲示物の作成・避難所のルールづくりなど話し合いながら事前準備をしています。

その他様々な防災訓練をしています。女性の知恵を生かして炊き出し訓練、倉庫の資機材の使用体験。先日は子ども達といっしょに、割れたガラスがどれほど痛いか、卵の殻の上を裸足で踏む「割れガラス体験」をしました。卵の殻は学校や町内に呼びかけて集めました。履物を枕元に置いて寝よう～の啓発活動です。

### ★活動を通して感じたこと・災害時に“ちから”を発揮することは？

安否確認はじめ様々な防災訓練の活動を通して、またK-Net<要援護者（柏市に登録申請）に支援者（柏市に応募）が付いて安否確認や避難支援をする制度>のモデル地区として関わっていく内に、平常時の「人と人とのつながり」が出来、町全体が一つになったような気がして嬉しく思っています。今まで横の繋がりが無かった人々が、横に繋がって活動する防災

訓練を通して、「人と人とのつながり」を広げています。

災害時にちからを発揮するのは、向う三軒両隣～「人と人とのつながり」だと思います。これが私の結論です。

\*「防災スリッパ」作成・質疑応答して終了。  
(濱田)

### ★アンケートから（回答：39／48名）

<感想、印象に残ったこと、まちづくりに大切なことは～>

\*わかりやすく具体的な防災訓練や組織づくりのお話、たいへん参考になった。

\*防災力とは、日ごろから災害を意識しイメージしておくこと。

\*向う三軒両隣り、地域の人と人とのつながりを大切にまちづくりを。



### 【お知らせ】ワーク・ライフ・バランス講演会

我孫子市男女共同参画室 企画

(仮) もしも・・・親が倒れたら <sup>あつみ</sup> 渥美 <sup>なおき</sup> 由喜さん

◆日時：6月30日（日）13：30～（開場13:00）

◆会場：生涯学習センター「アビスタ」ホール 入場無料



講師の渥美さん談「ある日突然、乳幼児2人の子育てと家事、そして介護という3Kに直面。近くに住む父親が認知症になり、徘徊が始まったのである。妻も働いている状況で、父の介護は自分がしなければならぬ。子育ては大変だが、楽しいし、可愛い。やがて楽になるという希望もある。しかし、介護はしんど

い。大好きで尊敬している親が、崩れていく過程に付き合うからだ。自分の会社は育児休暇や介護休暇制度が整っているのでは無い。」

高齢社会の日本。市内の高齢化率も25%。誰もが直面する親の介護。それを乗り越える力はどこに？

厚生労働省政策評価に関する有識者会議委員、(株)東レ経営研究所ダイバーシティ&ワーク・ライフ・バランス研究所部長

会 員 募 集!! ～お気軽にお立ち寄りください～ ◇定例会 毎月第一木曜日 PM13:30から  
◇市民活動ステーション（けやきプラザ10階）◇年会費1000円 \*連絡先 7183-2789(濱田)